

事業名：4 豊かで安心な魚を育む漁場環境監視事業  
課題名：漁場環境調査・貝毒プランクトン調査・有害赤潮調査

期間：H19 年度～

予算額：H30 年度 3,417 千円（うち国庫 594 千円）

担当：増殖推進室（門脇 慧史）

目的：

沿岸域の漁場環境の把握を目的に沿岸漁場環境調査、イワガキを対象とした貝毒プランクトン調査、有害赤潮調査を行った。

成果の要約：

## 1 調査内容

### (1) 沿岸漁場環境調査

平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月までの計 7 回、調査船「おしどり」を用いて水温・クロロフィル a 量の測定、漁獲状況の把握を行った。水温の測定は赤碓地先及び長尾鼻地先の計 10 定点で行った。クロロフィル a 量の測定は長尾鼻地先の計 2 定点で行った。漁獲状況の把握は淀江、御来屋、赤碓、泊、酒津で水揚げされた漁獲物、漁獲量及び操業数について聞き取りを行った。

### (2) イワガキを対象とした貝毒プランクトン調査

平成 30 年 5 月から 7 月までの各月 1 回、浜村地先の計 2 定点で調査船「おしどり」を用いて透明度・水温・塩分濃度の測定、貝毒プランクトンの同定及び計数用の採水を行った。貝毒プランクトンの同定及び計数は業務委託で行った。

イワガキを対象としたノロウイルス検査は鳥取県衛生環境研究所、貝毒化検査は業務委託で行った。

### (3) 有害赤潮調査

平成 30 年 7 月から 10 月までの各月 1 回、沖合海域及び沿岸海域の計 11 定点で調査船「第一鳥取丸」、調査船「おしどり」を用いて又は陸上から風向・風速の観測、透明度・水温・塩分濃度の測定、海色の観察、有害赤潮プランクトン同定及び計数用の採水、魚介類斃死の確認を行った。有害赤潮プランクトンの同定及び計数は顕微鏡を用いて行った。

## 2 結果の概要

### (1) 沿岸漁場環境調査

水温、クロロフィル a 量、漁獲状況の調査結果を「沿岸域の海況と漁況」としてまとめた。調査定点のうち長尾鼻地先の 1 定点（緯度：35° 34′ 経度：134° 00′）の表層水温及び平均（1m層、10m層、

20m層の計 3 層の平均）クロロフィル a 量の変化を図 1 に示す。

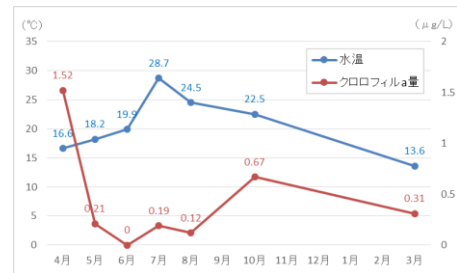


図 1 表層水温・平均クロロフィル a 量の変化

### (2) イワガキを対象とした貝毒プランクトン調査

麻痺性貝毒原因種は *Alexandrium* sp. cf. *catenella*，下痢性貝毒原因種は *Dinophysis acuminata* の計 2 種の出現が確認されたが、いずれの種もイワガキが毒化する出現密度ではなかった。

### (3) 有害赤潮調査

有害赤潮プランクトンの出現、魚介類斃死は確認されなかった。

成果の活用：

### (1) 沿岸漁場環境調査

「沿岸域の海況と漁況」を県内沿岸漁業協同組合へ情報提供、当センターホームページで掲載を行った。

### (2) イワガキを対象とした貝毒プランクトン調査

調査結果を「貝毒プランクトン調査結果」としてまとめ、水産課を通じて県内沿岸漁業協同組合へ情報提供を行った。

平成 30 年度イワガキのノロウイルス及び貝毒対策会議で報告を行い、県内漁業協同組合へ情報提供を行った。

### (3) 有害赤潮調査

平成 30 年度イワガキのノロウイルス及び貝毒対策会議で報告を行い、県内漁業協同組合へ情報共有を行った。

関連資料・報告書：

### (2) イワガキを対象とした貝毒プランクトン調査

平成 30 年度水産業関係研究開発推進会議漁場環境保全関係研究開発推進会議赤潮・貝毒部会議事要録。

### (3) 有害赤潮調査

平成 30 年度漁場環境改善推進事業「赤潮被害防止対策技術の開発」報告書。